

## ジャガイモシストセンチュウ抵抗性のばれいしよ新品種「普賢丸」の育成

茶谷正孝・森 元幸<sup>1)</sup>・石橋祐二・田淵尚一<sup>2)</sup>・小村国則<sup>2)</sup> 中尾 敬  
 (長崎県総合農林試験場愛野馬鈴薯支場<sup>1)</sup> 北海道農業試験場畑作研究センター<sup>2)</sup>・長崎県総合農林試験場)

Masataka CHAYA, Motoyuki MORI, Yuji ISHIBASHI, Shoichi TABUCHI, Kuninori KOMURA  
 and Takashi NAKAO: A New Potato Cultivar "FUGENMARU"

「普賢丸」は、暖地二期作用としては初めてのジャガイモシストセンチュウ抵抗性品種で、1997年に「ばれいしよ農林39号」として命名登録された。ジャガイモシストセンチュウは、国内では1972年の初発生以来北海道内で発生地域が拡大していたが、1992年には長崎県の高尾半島で発生が確認された。既存の暖地二期作用品種は本線虫に感受性であったため、有効な防除法の一つである抵抗性品種の育成が急務となっていた。ここに本品種の特性の概要を報告し、普及上の参考に供したい。なお、本品種の育成に当たってご協力いただいた関係機関各位に深く謝意を表す。

## 1. 来歴および経過

「普賢丸」は、ジャガイモシストセンチュウ抵抗性遺伝子  $H_1$  を持つ加工用品種「Atlantic」を母、Yモザイク病および疫病に耐性を示す「P-7」を父とする交配実生から選抜した品種である。1990年春作より実生選抜を開始し、1994年秋作から「西海26号」の系統名で系統適応性検定試験、特性検定試験などに供試してきた結果、ジャガイモシストセンチュウ抵抗性を有し、良食味で早期肥大性に優れることから長崎県で認定品種に採用された。

## 2. 特性の概要

茎長は「ニシユタカ」より短い。早晩性は中早生で、茎葉の黄変時期が「デジマ」, 「ニシユタカ」より早い。花色は白であるが、開花はまれである。いもの形は球形で、目が浅く、二次生長は極めて少ない。皮色および肉色は明るい黄色で、いもの外観は良い。休眠期間は「ニシユタカ」より短く、「デジマ」並みかやや長い。いもの肥大始期が「デジマ」より早く、春作における早期収量は「ニシユタカ」並みに多収である。収量は、春作では「デジマ」並みであるが、秋作ではやや劣る。でん粉価は、春作では「デジマ」より高いが、秋作では同程度である。肉質は中～やや粉質で、煮崩れは少ない。調理後の黒変は見られず、食味は「デジマ」並みに良い。

病害虫抵抗性は、ジャガイモシストセンチュウに抵抗性を示す外、葉巻病およびYモザイク病にも比較的強い。そうか病に対しては「デジマ」並みかやや強い。疫病、青枯病および粉状そうか病に対しては「デジマ」同様に弱い。

## 3. 栽培上の注意点

1) いもの成熟に伴ってラセットが目立つようになり、外観を損なうので過期収穫を心がける。

2) 春作では茎葉黄変後に収穫するとよく枝着生部から

腐敗しやすいので掘り遅れないようにする。

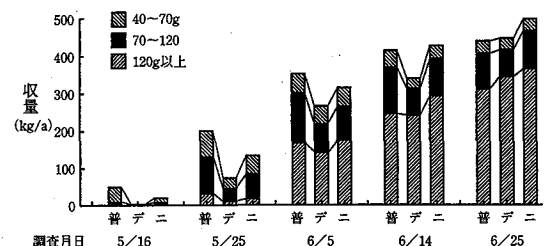
3) 青枯病に弱いので、秋作では早植えしない。

4) 強風により茎葉が損傷しやすいので、軟腐病の発生に注意する。強風地帯では防風対策を実施する。

第1表 育成地における「普賢丸」の特性概要

作期	形質	普賢丸	デジマ	ニシユタカ
春作	出芽期(月・日)	4.10	4.12	4.12
	茎長(cm)	37	81	62
	上いも重(kg/a)	389	390	458
	平均1個重(g)	110	148	154
	でん粉価(%)	11.5	9.9	9.7
秋作	出芽期(月・日)	9.20	9.20	9.25
	茎長(cm)	30	46	39
	上いも重(kg/a)	254	289	271
	平均1個重(g)	104	115	121
	でん粉価(%)	13.3	13.1	12.4
早晩性	やや早	やや晩	やや晩	
いもの形	扁球一球	扁球	扁球	
皮色	黄	白黄	白黄	
肉色	黄～淡黄	黄白	淡黄	
ジャガイモシストセンチュウ	抵抗性	感受性	感受性	
葉巻病	強	やや強	中	
Yモザイク病	やや強	中	中	
そうか病	中～やや弱	やや弱	弱	
青枯病	弱	弱	弱	

注) 1993～1996年の4カ年平均、ただし秋作のニシユタカは1995年を除く3カ年平均



第1図 春作普通栽培における規格別収量の推移 (94～96年平均)

注) 普: 普賢丸, デ: デジマ, ニ: ニシユタカ